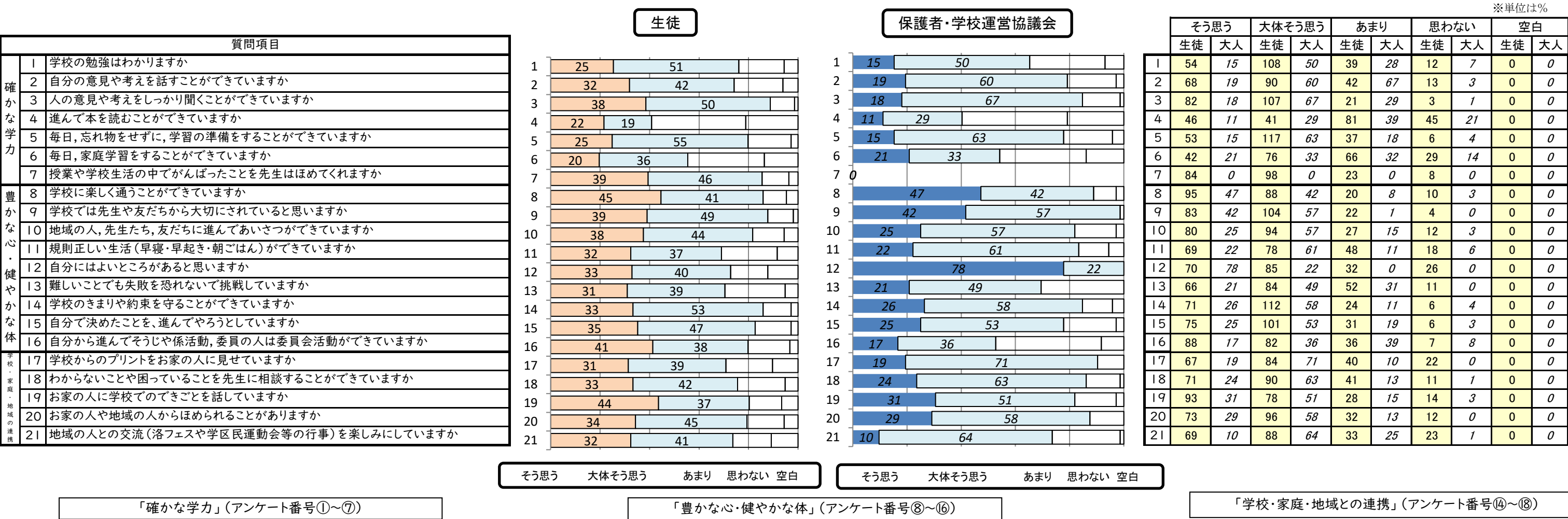


○【ブロック共通】目指す子ども像『自己実現に向けて、協働的に学び、粘り強く挑戦する子の育成』～9年間を通した系統性ある取組～
○【ブロック共通の児童生徒の課題より】重点目標（1）自己実現するための基礎学力・思考力育成（2）社会性・協調性を持った自律した児童・生徒の育成
○洛西中学校めざす生徒像 ①「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒【知】 ②自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒【徳】 ③ 命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るくいいきと生活できる生徒【体】



「確かな学力」（アンケート番号①～⑦）

「豊かな心・健やかな体」（アンケート番号⑧～⑯）

「学校・家庭・地域との連携」（アンケート番号⑭～⑲）

1. 基礎的・基本的な知識・技能の定着
★アンケート1「学校の勉強はわかりますか」については、「そう思う」が25%、「だいたいそう思う」が51%で、76%の生徒が「概ねわかる」と回答しており、前年度の後期より15ポイント減少しました。既習の学習内容において基礎的・基本的な知識の定着を一層図り、「できた」という実感を授業後に持たせ、興味関心を高めていきます。またスモールステップを積み重ねて達成感と自信をつけさせることにより、次に学ぼうとする主体的な学習意欲を高め、粘り強く学びに向き合う力を育成できるよう校内授業研究取り組みを通して、授業改善を進めていきます。

2. 思考力・判断力・表現力の向上
★アンケート2「自分の意見や考えを話すことができていますか」については、「そう思う」が32%で、「だいたいそう思う」が42%で、74%の生徒が「概ねできている」と回答しており、前年度の後期より5ポイント減少しました。思考力・判断力・表現力を伸ばすためには、まず自分の考えをまとめ書くことで論理的思考を整理し、他者へ自分の思いや考えを話し伝えることで深まっていくので、ペアやグループでの対話的な学習活動を单元の中で計画し、習慣化できるように授業設計を行い、各教科・单元で継続して取り組んでいきます。

★アンケート3「人の意見や考えをしっかりと聞くことができていますか」については、「そう思う」が38%、「だいたいそう思う」が50%で、88%の生徒が「概ね聞くことができています」と回答しており、前年度の後期より6ポイント減少しました。「聞く」力を高めることは、互いに思考判断したことを伝え合い、他者の考えと比較するために大切であり、自己分析が一層進むと考えます。このことが思考力や判断力等を高めることに繋がっていき、授業の中で新しい発見ができる楽しさや喜びになると考えます。

★アンケート4「進んで本を読むことができていますか」については、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が41%で、前年度の後期より2ポイント増加しました。総合的な学習に時間や朝の帯時間の中で、読書の取り組み時間を増やし、興味・関心を高める工夫を行っています。

3. 家庭学習の習慣化
★アンケート6「毎日、家庭学習をすることができていますか」については、「そう思う」が20%、「だいたいそう思う」が36%で、56%の生徒が「概ね家庭学習に取り組んでいる」と回答しており、前年度の後期より11ポイント減少しました。翌日の授業に繋がる家庭学習課題を設定することで、自学の結果が個別評価されることにより、学習習慣の形成を進めていきます。

1. 自己肯定感や自己決定の育成
★アンケート8「学校に楽しく通うことができていますか」については、「そう思う」が45%、「だいたいそう思う」が41%で、86%の生徒が「概ね登校できている」と回答しており、前年度の後期より2ポイント減少しました。学校祭等の大きな学校行事を中心として、一人一人が活躍できる場を意図的に設定し、互いの活躍を認め合うことから、自己肯定感や自己有用感を伸ばすことができるように支援を行い、より良い仲間づくりを推進して、安心して学校生活を送ることができるように全体と個別の支援を行っています。

★アンケート9「学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか」については、「そう思う」が39%、「だいたいそう思う」が49%で、88%の生徒が「概ね大切にされていると思う」と回答しており、前年度の後期より6ポイント減少しました。共感的な人間関係づくりを教育活動全体の中で取り組み、互いを高め支え合うことが、自分や相手にとって不可欠であるという価値観の定着を図ります。

★アンケート12「自分にはよいところがあると思いますか」については、「そう思う」が33%、「だいたいそう思う」が40%で、73%の生徒が「概ねよいところがあると思う」と回答しており、前年度の後期より4ポイント減少しました。生徒が主体的に活躍できる場面と、互いの努力を認め合える場面を意図的・計画的につくることを継続していきます。生徒会活動を中心に、生徒から生徒への提案や発信を行う場面を増やすことにより、過ごしやすい学校をつくっていく意欲をもたせていきたいと思います。生徒が中心となった取り組みで成功体験を積み重ねていき、生徒に自信をつけさせていきたいと思います。

★アンケート15「自分で決めたことを進んでやろうとしていますか」については「そう思う」が35%、「だいたいそう思う」が47%で、82%の生徒が「概ねやろうとしている」と回答しており、前年度の後期より5ポイント減少しました。生徒が自己決定を行い、できそうな目標を設定し、励ましと承認の繰り返しによって、挑戦したことが周りから認められることで、次の行動に繋がっていききたいと考えます。

2. 基本的生活習慣の確立
★アンケート11「規則正しい生活ができていますか」については、「そう思う」が32%、「だいたいそう思う」が37%で、69%の生徒が「概ねできている」と回答しており、前年度の後期より4ポイント減少しました。睡眠時間の確保と栄養を十分に摂ることは、思春期の成長期には不可欠であり、脳を活性化させ学習効果を高めるためにも、保健だよりを活用した生活に関する指導や、生徒・保護者に規則正しい生活習慣の啓発を行っています。

1. 家庭・地域との連携
★アンケート18「わからないことや困っていることを先生に相談することができていますか」については、「そう思う」が33%、「だいたいそう思う」が42%で、75%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より1ポイント減少しました。教職員が生徒の気持ちに寄り添い、細かな働きかけを継続して行い、生徒の心情理解を大切にしていきます。

★アンケート19「お家の人に学校でのできごとを話していますか」については、「そう思う」が44%、「だいたいそう思う」が37%で、81%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期と同じポイントでした。

★アンケート20「お家の人や地域の人からほめられることがありますか」については、「そう思う」が34%、「だいたいそう思う」が45%で、79%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より5ポイント減少しました。家庭で子どもたちと共通の話題で話を行う中で、他者から評価されることが子どものモチベーションを高めることになります。子ども自身の判断に基づいて、場面に応じて適切な行動の選択が行えた時には、どんなに小さなことでも行動を認め褒められることが自尊心を高め、自己決定をする力を獲得していくことにつながります。大人が子どもたちをきめ細かく見取り見守ることを通して、生徒と家庭・地域・学校の大人との信頼関係がつけられていきます。信頼できる人間関係により、子どもが自立できる人間的な成長に結びつくと考えています。

★アンケート21「地域の人との交流（洛西ふれあいフェスティバルや学区民運動会等の行事）を楽しみにしていますか」については、「そう思う」が32%、「だいたいそう思う」が41%で、73%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より1ポイント増加しました。地域の人たちとのふれ合いの場である地域行事に対して、地域行事に参加することに関心をもち、地域とのつながりを意識して地域に貢献できる人材を育てていきたいと思います。

2. あいさつの習慣化
★アンケート10「地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか」については、「そう思う」が38%、「だいたいそう思う」が44%で、82%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期より1ポイント増加しました。道徳や学級活動においても、挨拶の大切さを伝える学習や挨拶から始まる人間関係づくりの取り組みを生徒が主体となって取り組んでいきます。